

令和4年1月8日付山陰中央新報

読むと広がる幸せな笑顔

ようこそ、絵本の森へ

—ロングセラーを読み解く—



島根県立大教授 岩田英作さん

ロングセラー絵本を取り上げ、山陰両県の専門家がリレー形式で読み解く企画の4回目は、絵本の読み聞かせをする「えーさくおじさん」として知られる、島根県立大人間文化学部教授の岩田英作さんが担当します。

角がなく丸みのあるキャラ

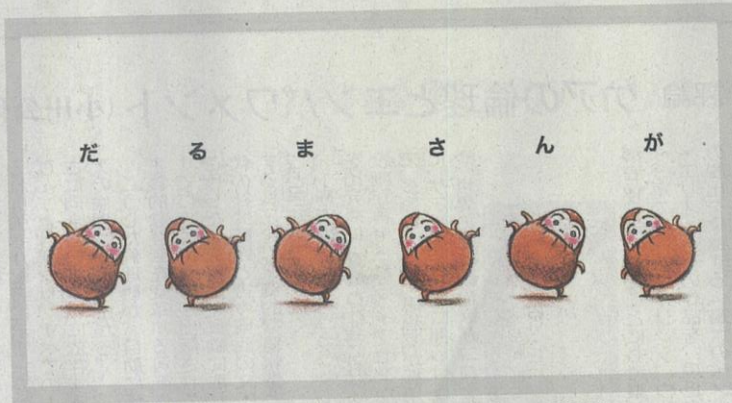
だるまさんの動きを補助的に表す程度に添えられています。

◇ まつ白な背景に、だるまさんが左右にからだをゆらゆらと倒れ、お次は「ぶて」と倒れ、お次は「ぶしゅー」としぼんで、



「だるまさんが」かがくいひろし作 (ブロンズ新社)

だるまさんが (かがくいひろし作、ブロンズ新社)



「だるまさんが」かがくいひろし作 (ブロンズ新社)

その次には「ぶて」とおなじ文章はごく控えめで、

私自身、これまででもっとも読み聞かせに活用した



いわた・えいさく、1963年、雲南市生まれ。島根県立大人間文化学部教授。専門は日本文学。自身に子どもが生まれたこと、大学で読み聞かせの授業に携わったことで「絵本愛」が芽生えた。松江キャンパス児童図書館「おはなしレストラン」代表、島根県しまね子ども読書活動推進会議委員長も務める。好きな絵本作家はジョン・バーニンガムと荒井良一。

絵本が、このだるまさんシリーズでした。中でも「だるまさんと」の大型絵本を好んで持ち歩き、島根県内ではもちろん、震災後の東北で、あるいは沖繩の小学校で、はたまた大阪府庁の大会議室で読みました。職場の忘年会でもあいさつ代わりにこの絵本を広げ、お尻で「ぼん」としてワイワイ、「ぎゅつ」とハグしてキャラクター、大騒ぎでした。読んだ状況も、対象もさまざまでしたが、そこには決まって笑顔があり、あたり一面に幸せな空気が広がるのでした。

かがくいさんが手掛けた絵本に登場するのは、だるまさんのほかに、おもち、おむすび、やかん、まんじゅう、ふとんひょうたん、ケーキ、うめぼしなどです。例外もありますが、角がなく丸みを帯びているのが大きな特徴です。そして、触感も柔らかいか、すべすべつるつるしたものが多い

ように思います。まるで、かがくいさんの絵本を読んだあとの「心」のかたちそのものではないでしょうか。かがいさんの54年の生涯のうち、28年間は特別支援学校の先生でした。絵本作家としての活動期間は晩年の4年間にすぎません。特別支援学校では、生徒一人一人に合った手作りの教材を作るのが日課でした。

ある時にはパスタやめんを生徒に折らせてその感触を楽しみ、折った麺を貼り付けて絵本を作ったりしました。きつと生徒たちは大喜びだったに違いありません。その延長線上に、自然と絵本作家への道が開けていったのでしよう。

09年に病魔に倒れることを残念に思うよりも、わずか4年とはいえ、だるまさんシリーズをはじめとする16冊の素晴らしい絵本を残してくれたことに、心から「ありがとう」と言いたいと思います。

● 第一土曜掲載 ● (タイトルカット、似顔絵・くさなり)